

## (根)ショウガのカルテック施肥例

(10アール当り)

<p><b>地力作り</b></p>	<p>前作終了後、冬季に畑土の準備をしておくことが大事。もし春に地力作りを行う場合は、植付けまでに30日以上(なるべく長く)おくこと。</p> <p>右記を散布して、深く耕して下さい。</p> <p>※ショウガ栽培は、地力作りで半ば以上が決定します。保水・排水・肥沃性</p>	<p><b>堆厩肥 2トン</b> ※完熟堆肥なら、安全ですが エネルギーに乏しいので、4トン以上。 ※堆厩肥を投入しない場合は 米ヌカ(60~120kg)などの有機物を。</p> <p><b>ラクトバチルス 600グラム</b> ※堆厩肥を安全に土中醗酵させ、水分変動の少ない土壌にします。 ※<b>土壌EC:0.2</b>程度に落ち着かせ、チツソは 地力として持続的に。</p> <p><b>硫安 80kg (~100kg)</b> ※(瘦せた土で堆厩肥が乏しい場合のみ、硫酸カリ 20kg追加) ※もし通常の複合肥料を使う場合は、<b>チツソ成分で20kg</b>程度。 ※鶏糞を使う場合は 硫安の施肥量を減らしてよい。</p> <p>★カルテック栽培を継続していれば 土壌pH:6.0前後と、適正なはずですが、もし土壌が酸性(pH:5.5以下)の場合は、<b>畑のカルシウム60kg</b>を追加して、土壌深層まで 適正pHとしておくこと。 (カルテック栽培では、栽培中に酸性化しないように施肥するので、予め土壌pHを 6.5以上に上げておく必要はありません。)</p>
<p><b>植付け前の施用</b></p>	<p>植付け前に全面散布またはウネ上に散布。</p> <p>植付け時に<b>土壌EC:0.2程度、pH:6.0程度</b>であること。</p>	<p><b>畑のカルシウム 60kg</b> (酸性土壌では増量) ※初期からカルシウム栄養を豊富に吸収させ、徒長・倒伏させないために、植付け前の施用が効果的です。(ウネ上へ散布してもよい) ※<b>土壌pH:6.0</b>を目安としてください。ショウガは比較的 酸性に強く、5.5~6.0で健康に生長しますが、一時的にpHが低下することもあるので、余裕をもって6.0を標準とします。</p>
<p>(4月) <b>植付け時</b></p>	<p>植付け(伏せ込み)後に灌水 [~間引き]</p> <p>※1ヵ月半は、親ショウガの栄養と、地力と根の力で生長させます。</p>	<p><b>濃縮酵素液</b> (500倍程度) 十分に灌水(散水)します。 ※揃って分ゲツさせ、根を一斉に強いのばし、出芽させます。 ※伏せ込み後1ヵ月以内に、種1個当たり3本以上の一次茎を確保すること ※(5月後半) 一次分ゲツ発生から少し遅れて、根数が急激に増加します。もしも 分ゲツ・発根が心配な場合は、5月に <b>酵素液</b>を灌水。</p>
<p>(6月前半) <b>萌芽後の追肥 ①</b></p>	<p>出芽揃い後に(第1回)追肥をして中耕する。 &lt;分ゲツと茎重の確保&gt;</p>	<p><b>硫安 20kg</b> ※伏せ込み時のカルシウムが まだ効いているはずなので、硫安のみ。 ※(6月後半) 二次分ゲツ(二次茎)が揃った後に 土寄せ・敷きワラ。塊茎の肥大開始期になりますから、EC:0.4より高くしないこと。ECが高いか、地力が無いと、(過繁茂・軟弱) 紋枯・イモチ病が多い。</p>
<p>(7月下旬~8月上旬) <b>塊茎肥大前期の追肥 ②</b></p>	<p>三次茎の発生中(四次茎の発生より前)に、塊茎の肥大が大きく進みます。遅れないように(第2回)追肥を施す。</p> <p>右記3種を同時に施用するのが効果的です。(他の方法もあります) &lt;塊茎の充実・肥大&gt;</p>	<p><b>硫安 20kg</b> <b>畑のカルシウム</b> または <b>カルテックCa粒状 20kg</b> ※硫安(チツソ肥料)を 四次茎発生後に施したり、遅効きすると、ショウガの品質が悪化します。カルシウムは やや遅く施すことも出来ます。 ※安全なのは《畑カル》。土壌pHが適正で、品質を重視するなら《Ca粒》。 ※8月後半:四次茎、9月後半:五次茎が分ゲツする頃、塊茎肥大がピークとなります。ここまでの全期間、適度の水分(灌水)が大切です。以後、10~11月の収穫(貯蔵)まで、塊茎の中身が充実していきます。 ※10月はじめに <b>カルテックCa液状</b>の葉面散布で、充実を促進します。 ※カルシウムが効いていると、繊維が軟らかで 辛味・芳香・旨味があり、貯蔵中に低温でも腐敗せず、高温でも萌芽しにくくなります。</p>

		<p><b>濃縮酵素液</b>（500倍程度）十分に灌水(散水)します。</p> <p>※梅雨期～夏期に 根茎腐敗病の病原菌(ピシウム)が増えます。また、茎葉や塊茎が増大する負担に 根量が追いつかないと 立枯症状も多くなります。その対策として、6～8月に 酵素液。</p>
--	--	--